



津島のみちしるべ

愛知県津島市

Concept

津島を伝える。。。私たちは津島を知る必要があるのではないか。

津島には数多くの古寺や寺院、風情ある町の街があり、祭りや伝統文化などが密接され、まちの魅力となっている。一方で津島の大部分が海抜ゼロメートル地帯に属している。そのため台風や集中豪雨によって浸水被害が懸念される地域である。それは津島生活において忘れられているのではないかだろうか。災害が起きたとき、私たちは否が応でも思はず、しかし、災害が起きたときでももうない。私たちは災害が起る前に行動を起こす必要がある。そこで、私は日常生活の中で災害を伝える。津島固有の歴史や伝統文化をもちろんのこと、海抜ゼロメートル地帯という津島固有の問題を伝えていく。

災害時に本当に心配されるのは場所や建物、足場は災害時だけではなく、山登りにおいても変えて、町じゅうに広がる。斯くおられた人は建物に備えつけられた記録や船を見て、隠間に思う。それが津島を知るきっかけになる。年に数回行われる祭りといつぱん、その際、足場はまた場所を変える。それは見聞どころではない(高さから入りを眺めるところを想像する)。年によって高さを変えすることで、同じ場所でも違う高さの目線で楽しむことができる。それではまた見聞どころではないピーナッツを畒やることに異なる。津島は佐久いに見えて、見慣れてしまって足場。しかし、祭り時、日常とは違う高さに昇降された足場を見て、住人は自然と足場や空間の意味を思い出す。そして、日常生活において忘れかけている「災害への心配」に向き合っていく。日常と津島が互いに影響の繋りを深めに、津島を知ること、忘れないための「みちしるべ」を建築で創造し、災害に強い津島型住宅モデルを提案する。

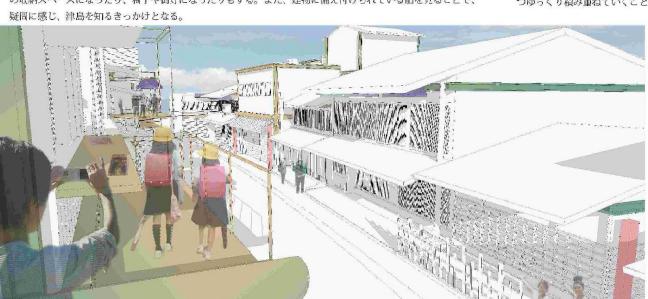
System

津島型住宅モデル実現ツール「みちしるべ」



星場・鉄骨フレームは床下約2mの深さに埋め込み、コンクリートで打設する。地震時の耐震性能を改善し、建物の強度を高める。鉄骨フレームにより既存の他の家の中よりも高い耐震性が見込め、設置コストの削減となる。鉄骨フレームに組み合わさることで大きな耐震性が見込め、設置コストの削減となる。あらかじめ水位計をボルト内に設け、地盤に埋め込まれているため、災害時でも正確に水位を測ることができる。

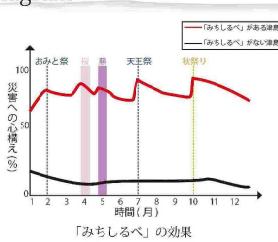
星場・災害時の交通手段の一つ、足場と連携して位置を覚えることができる。日常では構造用合板や非常時持ち出し用の収納スペースへなど、椅子や釘打機などもつける。また、建物に備え付けられる前を見ることで、段階に感じ、津島を見るきっかけとなる。



伝統的な町家の連なりがある津島。水に連続的に繋がった前庭補強の鉄骨フレームは町に現代版の堀がりをもたらす。伝統的な温湯は軒下に軒下に鉄骨フレームに配され、温湯を貯蔵しない。温湯は日常牛乳では組合結び、温湯フレームの温湯しなど多目的に機能する。足場には上下水道や電線などのインフラが組みこまれる。電柱がなくなり、開放的な空間が広がる。窓は必ず止まらず見て見てしまたくなる津島の街並み。そんなとき、足場のどこどろに流れられてしまうちょっとしたスペースでと休み。写真を撮るのも手を気にする必要はない。足場は第二の動線として機能し、人を車に分けて学校や公園に安心して向かうことができる。

災害時、足場は活動的水面の高さに展開される。一般的に災害時は足場が根く、歩きが困難になる。しかし、水面の高さに適応して開拓する足場は災害時でありながらアフターフェアを実現する。足場と車により歩行手段を保たれ、インフラを組み込むことでインフララインを確保される。避難所まで安全に向かうことができ、移動は自ら安らぎとなる。

Diagram



Development・Possibility

- ・建物の耐震性能を向上させ、災害時の避難経路として機能する。
- ・足場は第二の動線となり歩行者を引く。学校や公園などに安全に行くことで津島固有のラドバーンシステムの実現を図る。
- ・迷路のように多様化されることで、重複的な空間を作り出し、新たなコミュニケーションツイードが形成され津島の新たな魅力を引き出す。
- ・建物と迷路間に繋がり、ところどころで設けられた広いスペースはミニラブやサーカスなどが行われる。
- ・内部に「下駄道や壁際などのインフラを組み込んだり、建物のメンテナンスを容易に行なうことができる。
- ・足場の高さを変えることにより、普段見ることでできない位置から眺めることができ、新たな魅力、忘れかけている心構えを回復させる。災害時は前庭ボールの水位計と連動して自動で足場が設置される。
- ・縁側したり、菜園を設けることで環境に配慮する。



住民は壁面緑化などを、場所を始める。供はは土をめ、吹いていた花や草を育む果物に夢中である。一緒に並んで水をあげたり、話をしたりする。楽器の音、歌聲が聞こえる足場がある。そこではミニライブが開かれていている。住民や観光客は舟の舟に乗り、楽器や歌に耳を傾けたり、声をあげ、大笑したり。小さなコミュニティは活性化し、広がっていく。足場の場所が変わることで、また違った空間を作り出し、魅力を引き出す。津島の「道網」から発信する「みちしるべ」はそういうところから、一つ一つゆっくりと輪を重ねていくことが非常に大変である。そうすることで、通りやはまはにぎわい、洋気を取り戻していく。

舟の舟は舟の舟の深さに埋め込み、コンクリートで打設する。地震時の耐震性能として機能する。

・足場は第二の動線となり歩行者を引く。学校や公園などに安全に行くことで津島固有のラドバーンシステムの実現を図る。

・迷路のように多様化されることで、重複的な空間を作り出し、新たなコミュニケーションツイードが形成され津島の新たな魅力を引き出す。

・建物と迷路間に繋がり、ところどころで設けられた広いスペースはミニラブやサーカスなどが行われる。

・内部に「下駄道や壁際などのインフラを組み込んだり、建物のメンテナンスを容易に行なうことができる。

・足場の高さを変えることにより、普段見ることでできない位置から眺めることができ、新たな魅力、忘れかけている心構えを回復させる。災害時は前庭ボールの水位計と連動して自動で足場が設置される。

・縁側したり、菜園を設けることで環境に配慮する。

・建物の耐震性能を向上させ、災害時の避難経路として機能する。

・足場は第二の動線となり歩行者を引く。学校や公園などに安全に行くことで津島固有のラドバーンシステムの実現を図る。

・迷路のように多様化されることで、重複的な空間を作り出し、新たなコミュニケーションツイードが形成され津島の新たな魅力を引き出す。

・建物と迷路間に繋がり、ところどころで設けられた広いスペースはミニラブやサーカスなどが行われる。

・内部に「下駄道や壁際などのインフラを組み込んだり、建物のメンテナンスを容易に行なうことができる。

・足場の高さを変えることにより、普段見ることでできない位置から眺めることができ、新たな魅力、忘れかけている心構えを回復させる。災害時は前庭ボールの水位計と連動して自動で足場が設置される。

・縁側したり、菜園を設けることで環境に配慮する。

・建物の耐震性能を向上させ、災害時の避難経路として機能する。

・足場は第二の動線となり歩行者を引く。学校や公園などに安全に行くことで津島固有のラドバーンシステムの実現を図る。

・迷路のように多様化されることで、重複的な空間を作り出し、新たなコミュニケーションツイードが形成され津島の新たな魅力を引き出す。

・建物と迷路間に繋がり、ところどころで設けられた広いスペースはミニラブやサーカスなどが行われる。

・内部に「下駄道や壁際などのインフラを組み込んだり、建物のメンテナンスを容易に行なうことができる。

・足場の高さを変えることにより、普段見ることでできない位置から眺めことができ、新たな魅力、忘れかけている心構えを回復させる。災害時は前庭ボールの水位計と連動して自動で足場が設置される。

・縁側したり、菜園を設けることで環境に配慮する。

・建物の耐震性能を向上させ、災害時の避難経路として機能する。

・足場は第二の動線となり歩行者を引く。学校や公園などに安全に行くことで津島固有のラドバーンシステムの実現を図る。

・迷路のように多様化されることで、重複的な空間を作り出し、新たなコミュニケーションツイードが形成され津島の新たな魅力を引き出す。

・建物と迷路間に繋がり、ところどころで設けられた広いスペースはミニラブやサーカスなどが行われる。

・内部に「下駄道や壁際などのインフラを組み込んだり、建物のメンテナンスを容易に行なうことができる。

・足場の高さを変えることにより、普段見ることでできない位置から眺めことができ、新たな魅力、忘れ